

東北福祉大学ではこれまでに、3000人を超える教職員・学生がボランティアに参加しました。



10月23日(日)、東北福祉大学ステーションキャンパスで開催された地域イベント「くみにみ街道復興祭」において、学生たちの災害支援ボランティア活動報告会が行われました。

5人の学生による活動報告では、3月11日の震災翌日から行った避難所での活動、仙台から石巻市にシャトルバスでボランティアを送り込んだ活動、名取市や南三陸町等の避難所や仮設住宅での活動が報告されました。

災害支援としての遊び・レクリエーションの必要性を確認。 東北福祉大学 災害支援ボランティア活動報告会

震災翌日の活動

では、食事支援や生活支援に加えて児童へのレクリエーション支援が位置づけられ、これまでの震災時と比べ早い段階からレクリエーションの支援が行われていた様子が伝えられました。各地の避難所での活動では、暴力的な一面を見せる子どもたちと接した体験が語られ、ストレスを軽減するためにも「どんな理由であれ、子どもたちの遊びは制限されるべきでない」という報告がされました。また、支援活動を通して、被災者とのつながりを作ることの大切さや、仮設住宅での交流の場を作ることの大切さが提起され、今後、被災者のつながり・社会性を広げる支援の必要性和、そこにおける遊び・レクリエーションによる支援の有効性が確認されました。

後半のディスカッションでは、被災者



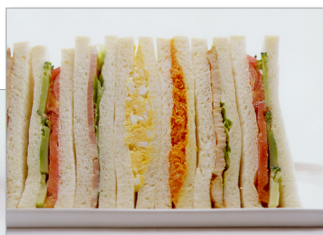
に寄り添い、力を引き出すような支援が今後求められることや、直接的な支援だけでなく裏方的な支援の大切さに気づいたことなど、災害支援ボランティアの経験を通してわかったことが話されました。学生たちは、「被災者から反対に元気をもらったり、活動を通して自分自身が成長させてもらっている」と言います。学生の一人は、そうした恩返しも含めて、被災地の復興に関わる仕事に就ければという想いを話してくれました。

また、「子どもたちと遊んだり、高齢者の話に耳を傾けたり、学生だからこそできる役割がある」「ボランティアも瓦礫の撤去などのハードなものだけでなく、今後はレクリエーションによる支援も大切になる」として、ボランティア活動への参加を呼びかけました。これに対して会場からは、他大学の学生から「一緒に連携して活動したい」という申し出もありました。



www.yamazakipan.co.jp

おいしいパンと暮らしていますか。



窓にそそぐ柔らかな日差しと爽やかな風。

お気に入りの曲をかけながら作るサラダ。

トーストの焼ける芳ばしい香り。

そんな何でもない時間のかけがえのないやさしさ。

おいしいパンと暮らしていますか。

パンにはきっと、毎日をやさしく豊かにする力がある。

私たちはそう信じています。

